

預貯金で運用すれば 資産が目減りすることはない？

金融調査部 研究員 是枝 俊悟

-今回の数字-

マイナス 0.555%

(何の数字であるかは、後ほど紹介します)

2016年から金融機関の窓口で物価連動国債が個人にも販売されるようになります。

物価連動国債は、当初100円の額面が物価上昇率に応じて増加する国債です。10年後の償還時に当初より物価が20%上昇していれば額面100円に対して120円で償還されます。一方で、(2013年以後の発行分については)もし償還時に当初より物価が下落していても額面100円での償還が保証されるフロア条項がついています。

年2回の利子も支払われるため、物価連動国債を額面価格で取得すれば、投資家にとってその利子分が実質利回り(物価上昇率を上回る利回り)として保証されます。

もっとも、物価連動国債に対する需要は強く、直近の物価連動国債は、金利が年0.1%しかつかないにもかかわらず、発行価額は額面100円を大きく上回る106円70銭でした。

この価格をもとに、物価上昇率が0%であった場合、すなわち額面100円で償還される場合の利回りを計算するとマイナス0.555%となります。物価上昇率がプラスなら年1%上昇するごとに名目の利回りも年1%上昇します。ですが、名目の利回りから物価上昇率を差し引いた実質利回りでは常にマイナス0.555%で変わりません。物価に勝てるのはデフレの時だけですが、デフレの状況下では物価連動国債で運用するよりも通常の国債や預貯金で運用する方が有利になります。

では、通常の国債や預貯金で運用すれば物価に勝てるかということ、そうとも限りません。物価連動国債の価格が妥当ならば現在の市場は年1%程度のインフレを予想しているといえます。これを前提にすると、現在0.4%程度の年利回りで発行されている10年利付国債を買っても実質利回りは年マイナス0.6%程度となる計算です。預貯金の実質利回りはさらに低くなるでしょう。

物価連動国債の実質利回りがマイナスであるということは、今の日本では、元本保証・固定金利の金融商品での運用では、資産の実質的な価値が目減りする可能性が高いことを意味しています。

株式や投資信託などへの投資はリスクが高いとも言われます。ですが、今の日本ではリスクをとらないこともまたリスクと言えるような状況にあります。

今回の数字—マイナス 0.555%

2015年7月9日発行の10年物価連動国債（第20回）の単利利回り（年率）

（出所）財務省ウェブサイト

もう少し学びたい人へ

◆現在のところ、どのように物価は推移しているの？

→長内智・小林俊介「8月全国消費者物価」（2015年9月25日）

http://www.dir.co.jp/research/report/japan/sothers/20150925_010160.html

◆デフレ脱却はどのようにして達成される見通しなの？

→小林俊介「デフレ脱却の可能性を探る」（2015年2月10日）

http://www.dir.co.jp/research/report/japan/mloutlook/20150210_009437.html

※本稿は、「週刊ダイヤモンド」2014年11月1日号、28ページへの寄稿を再構成したものです。

（次回は10月5日に掲載します。10月9日まで、毎営業日連載します）

以上